

# 野洲市学校施設長寿命化計画【概要版】

## 第1章 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

### 1 背景

野洲市の学校施設は、昭和 40(1965)年代後半から昭和 60(1985)年頃にかけて建築されました。多くの学校施設は、老朽化による建物の劣化や設備の不具合などの問題を抱えています。そのため、適正な維持管理に加え、大規模改造工事や改築（建替え）に多額の費用が必要となります。

一方で、児童・生徒数は緩やかですが減少傾向にあります。今後、学校規模の適正化を図りながら児童・生徒数に見合った施設数とすることが、適正な維持管理をするための課題となっています。

### 2 目的

野洲市では、平成 26(2014)年 3 月に「野洲市小中学校施設保全計画」（以下「保全計画」という。）を定め適正な施設の維持管理を進めてきました。

野洲市学校施設長寿命化計画（以下「本計画」という。）は、保全計画の改訂にあわせ、学校施設を総合的観点で捉え、老朽化の状況を早い段階で把握し、適切な予防保全による長寿命化を推進するとともに、これまでの改築中心の手法に要するコストの縮減と財政負担の平準化を図ることを目的として策定します。

### 3 計画期間

令和 4(2022)年度から令和 13(2031)年度までの 10 年間

※劣化状況や予防保全工事の実施状況、社会情勢等により適宜見直しを行う

### 4 対象施設

小学校及び中学校の校舎、体育館、柔剣道場を対象

※ただし、プール施設と小規模な建物（倉庫や部室等の概ね 200 m<sup>2</sup>以下の建物等）は対象外とする

## 第2章 学校施設の目指すべき姿

次に定める事項を基本に整備及び維持管理を進めます。

- 1 安全・安心な学校施設づくり
- 2 快適な学習環境づくり
- 3 ユニバーサルデザインと防災機能の強化
- 4 環境への配慮

### 第3章 学校施設の実態

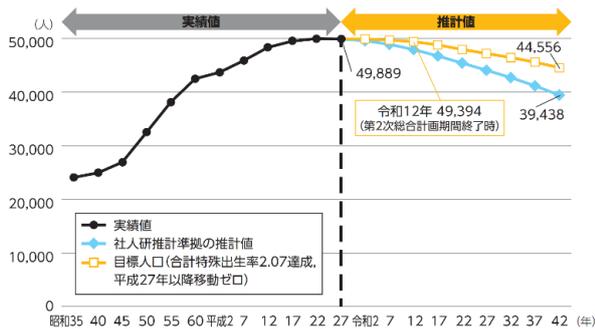
#### 1 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

(1) 対象施設 小学校6校、中学校3校の計9校

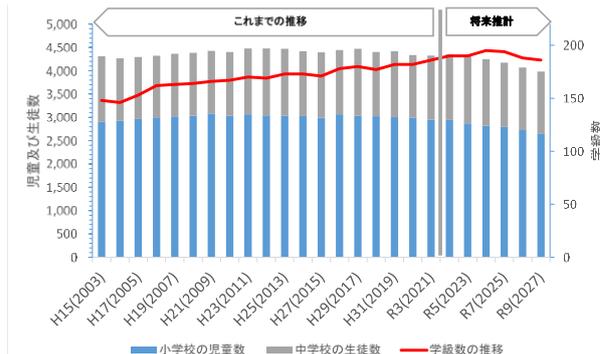
(2) 児童生徒数及び学級数の変化

児童及び生徒数は、約4,400人で推移していましたが、将来人口推計と同様に緩やかに減少していくことが見込まれます。学級数は特別支援学級の増加により、令和6(2024)年まで増加しその後緩やかに減少していくと見込まれます。

【図 今後の人口推移】



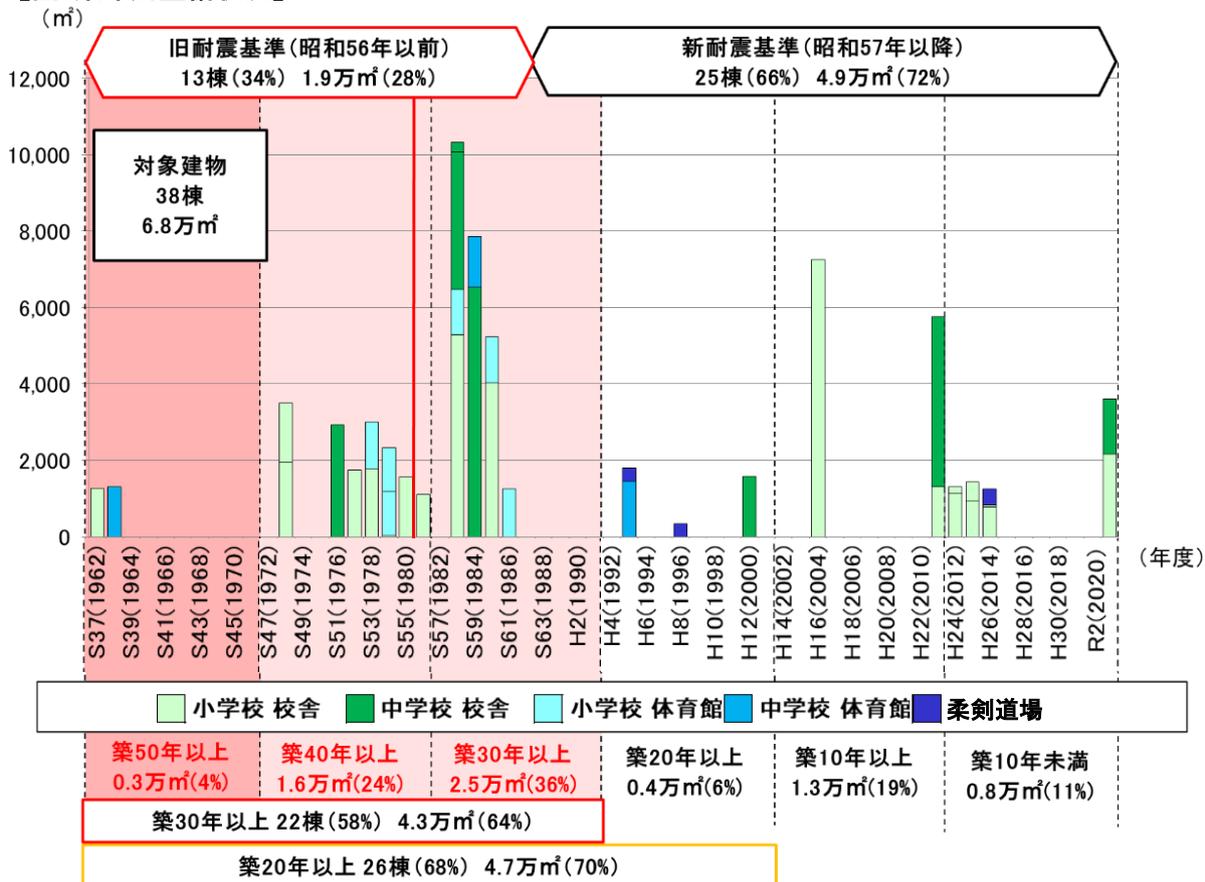
【図 児童及び生徒数と学級数の推移】



※出展：「第2次野洲市  
総合計画（令和3年3月）」

(3) 施設の保有量

【図 築年別整備状況】



① 校舎、体育館及び柔剣道場

対象施設の延床面積を建築年度別にみると、築年数30年以上の建築物は全体の約64%を占めており、築30年以上40年未満が約36%、築40年以上50年未満が約24%、築50年以上が約4%となります。

② プール施設

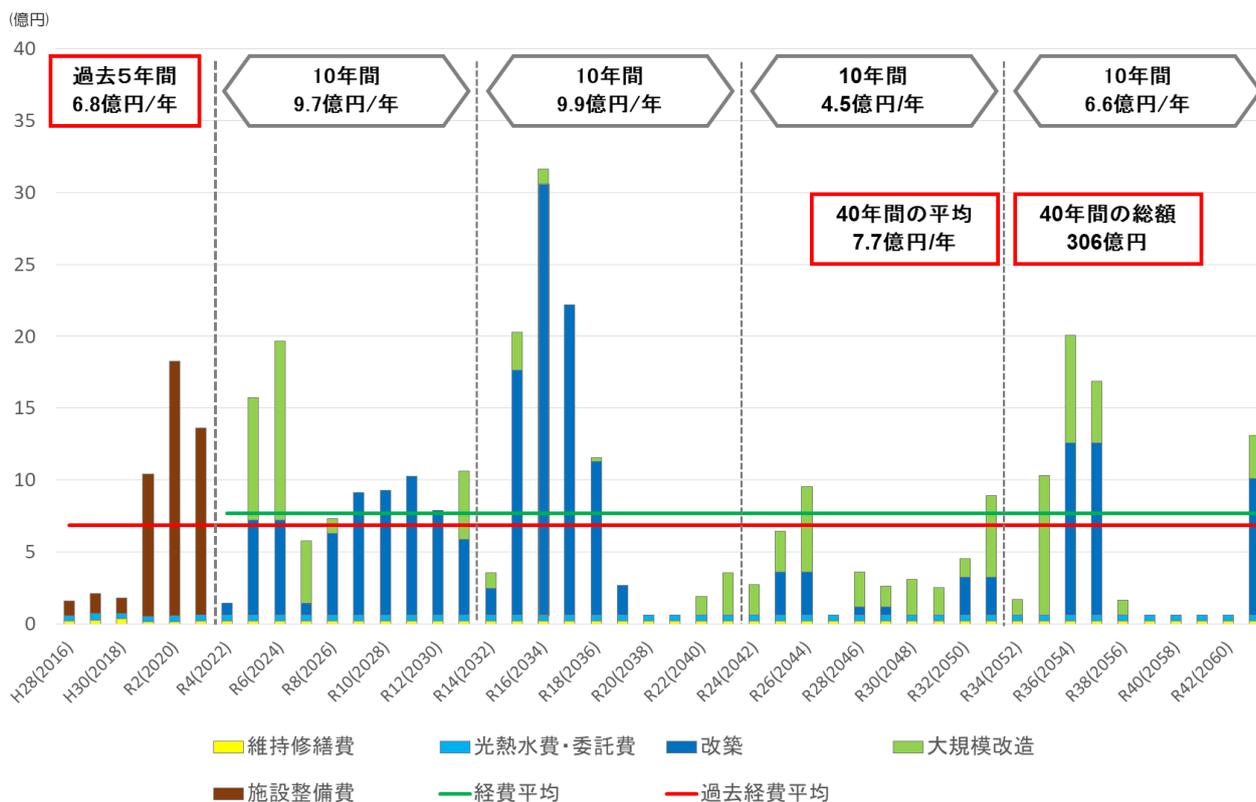
また、プール施設は、1校を除くすべてが築年数30年以上となっており、そのうち築40年以上が2校あります。

(4) 今後の維持・更新コスト（従来型）

校舎及び体育館等について、従来の改築前提の修繕・改修を今後も続けた場合のコストを試算すると、今後40年間のコストは306億円（7.7億円/年）となり、直近5年間の施設関連経費約6.8億円/年を約1.1倍上回ることが見込まれます。

特に令和14(2032)年度から令和23(2041)年度の10年間における施設関連経費は、9.9億円/年となり、直近5年間の約6.8億円/年と比較すると、約1.5倍のコストがかかる試算となります。

【図 今後の維持・更新コスト（従来型）】



※「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（文部科学省）」に基づき試算

(5) プール施設の更新コスト

築40年で建替えするとした場合、今後10年間で順次改築を行うこととなり、その費用は11.7億円から17.1億円かかることが見込まれます。

## 2 学校施設の老朽化状況の実態

### (1) 評価結果

「構造躯体の健全度の評価」及び「構造躯体以外の劣化状況等の評価」の評価結果、現在大規模改修事業を進めている中主小学校を除き健全度が低いのは、校舎では北野小学校・校舎棟1（36点）、中主中学校・本館（41点）、祇王小学校・本館/北館/南館（53点）となります。

プール施設について、全体的に老朽化が進んでおり随時修繕で対応しています。老朽化の状況を踏まえると、各施設とも大規模改修若しくは改築を行う必要があります。

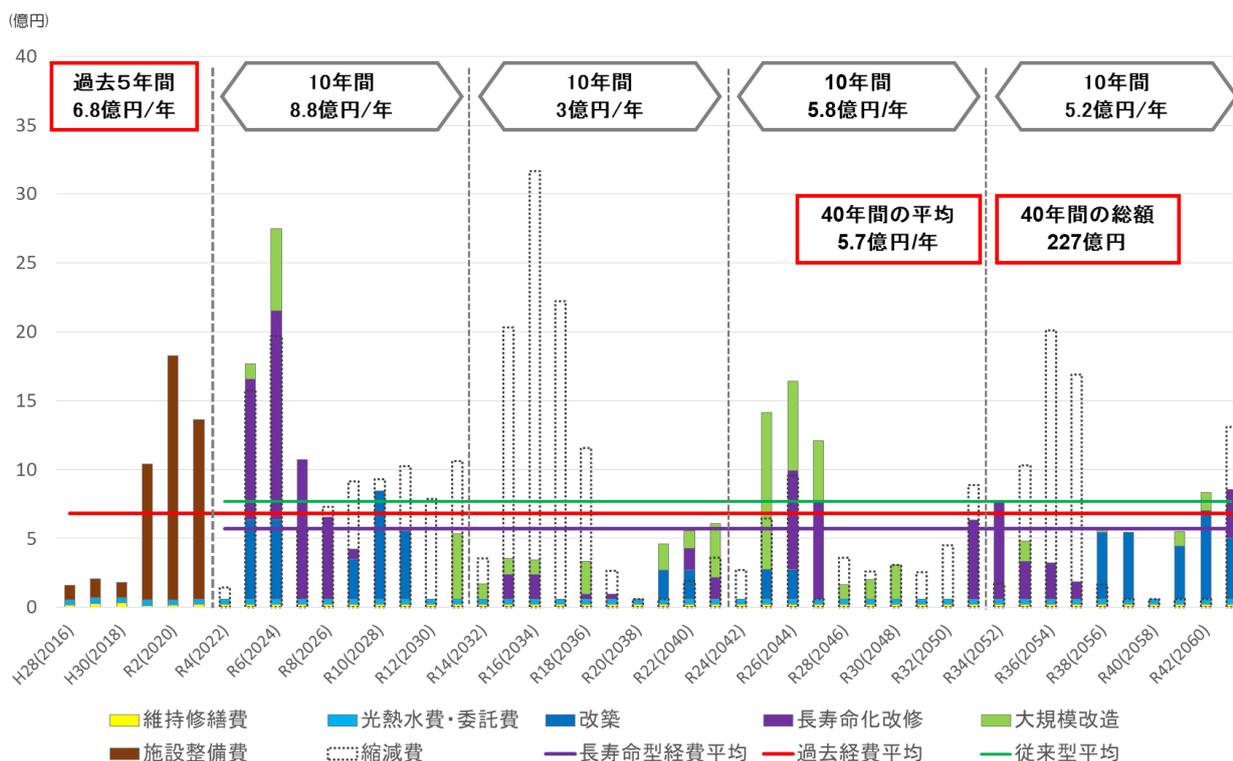
しかし、令和3(2021)年度において、野洲小学校では試験的に余熱利用施設を活用しプール授業を行っており、結果によっては他校も含め余熱利用施設の活用又はプール施設の集約化など、プールの利用形態のあり方を検討したうえで、施設の整備方針を決定します。

### (2) 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）

校舎及び体育館等について、「構造躯体の健全度の評価」及び「構造躯体以外の劣化状況等の評価」の結果に基づき、長寿命化により80年に建物を長寿命化した場合、今後40年間の維持・更新コストは総額約227億円（5.7億円/年）となり、従来の建替え中心の場合の306億円（7.7億円/年）より79億円（2.0億円/年）、約26%の縮減となります。

ただし、令和4(2022)年度から令和13(2031)年度の10年間ににおける施設関連経費が8.8億円/年となっており、財政的な負担などを考慮のうえ実施計画において平準化する必要があります。

【図 今後の維持・更新コスト（長寿命化型）】



## 第4章 学校施設整備の基本的な方針等

### 1 学校施設の規模・配置計画等の方針

児童・生徒数の将来推計や立地条件等を踏まえ、基本的には学校施設の規模・配置については現状を維持していくものとします。

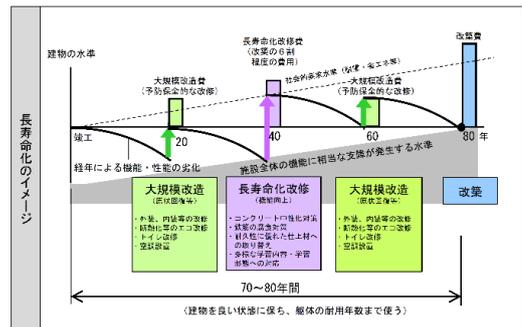
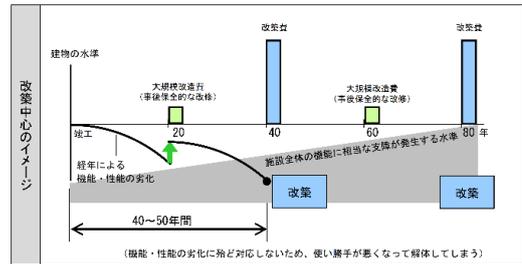
一方、将来的な人口減少や児童・生徒数の動向に注視しながら、必要に応じ通学区域の見直しなども視野に入れた検討を行うこととします。

### 2 改修等の基本的な方針

施設の維持管理方法については、「事後保全的な改修」と「予防保全的な改修」の2つの方法があります。

今後は、「予防保全的な改修」を実施することにより、改築(建替え)から長寿命化による改修を基本的な方針とし、原状回復のための大規模改造等についても考慮したうえで部位改修を併用した整備を行うこととします。

【図 改築中心から長寿命化への転換のイメージ】



※文部科学省「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」より

## 第5章 基本的な方針等を踏まえた施設整備の水準等

### 1 改修等の整備水準

本計画における整備水準を以下に示します。ただし、標準的な整備水準であり、整備内容は個別施設の状況、機器等の固有周期や財政状況を踏まえて判断することとします。

【表 整備概要】

	大規模改修(原状回復等) ※築20年/築60年	長寿命化(機能向上) ※築40年
屋根 屋上	屋上防水の更新	屋根/屋上防水の更新 ※断熱化を検討
外壁	外壁改修 老朽化の著しい箇所の修繕	外壁改修 外部建具の更新 ※断熱化を検討
内部 仕上	老朽化の著しい箇所の修繕	天井、壁及び床の改修 内部建具の更新、家具、什器の更新
電気 設備	老朽化の著しい箇所の修繕	受変電設備の更新、照明機器の更新(効率化) 配管、配線の更新
機械 設備	空調機器等の更新、EVの修繕 老朽化の著しい箇所の修繕	給排水管の更新、トイレの全面改修 空調機器の更新、EVの更新
機能 向上		躯体の中性化対策、鉄筋の腐食対策 多様な学習形態への対応、ユニバーサルデザイン化

## 2 維持管理の項目・手法等

学校施設の日常的、定期的な施設管理者等による点検により、児童生徒の安全・安心の確保が可能になるとともに修繕費用支出の縮減につながります。

【表 点検項目】

維持管理分類	項目	内容	実施時期	点検者
日常的な点検	日常点検	危険箇所や設備の異常の有無を確認	毎日	施設管理者
定期的な点検	自主点検	建物や設備の破損、劣化状況の確認	1年に1回	施設管理者 施設設置者
	建築基準法第12条に基づく定期点検	建築基準法で定められた点検	法で定められた時期	専門業者
	非構造部材点検	非構造部材の劣化状況等	3年に1回	施設管理者 専門業者
	各種設備等の法定点検	受変電設備、浄化槽、消防設備	法で定められた時期、随時	専門業者 施設管理者

## 第6章 長寿命化の実施計画

### 1 改修等の優先順位付けと実施計画

#### (1) 優先順位の考え方

劣化状況評価の健全度、建物の築年数及び過去の改修履歴等を基に優先順位を設定します。そのうえで、工事の効率性及び財政負担を考慮し、校舎と体育館、その他附帯施設などの一連の施設改修については、学校ごとに継続して改修工事を行うことを基本とします。

#### (2) 実施計画

今後10年間の長寿命化改修実施計画を以下に示します。改修等の優先順位を勘案したうえで、各学校とも概ね3～4年間の工事期間を見込み順次進めていくこととします。

また、過去に設置した空調機器については、設置後15年を超えてくることから、計画的に機器更新を行うものとします。

【表 今後10年間の実施計画】

	R4(2022)	R5(2023)	R6(2024)	R7(2025)	R8(2026)	R9(2027)	R10(2028)	R11(2029)	R12(2030)	R13(2031)
中主小学校	旧館改築 新館大改									
北野小学校	基本・実施設計		【校舎増築・長寿命化改修】 校舎・体育館							
中主中学校		基本・実施設計		【長寿命化改修】 校舎・体育館						
祇王小学校						基本・実施設計		【長寿命化改修】 校舎		
									※老朽化の状況により改築も検討	
その他	【空調設備改修】 ※設置後15年超の機器を対象									
	【通常修繕】									

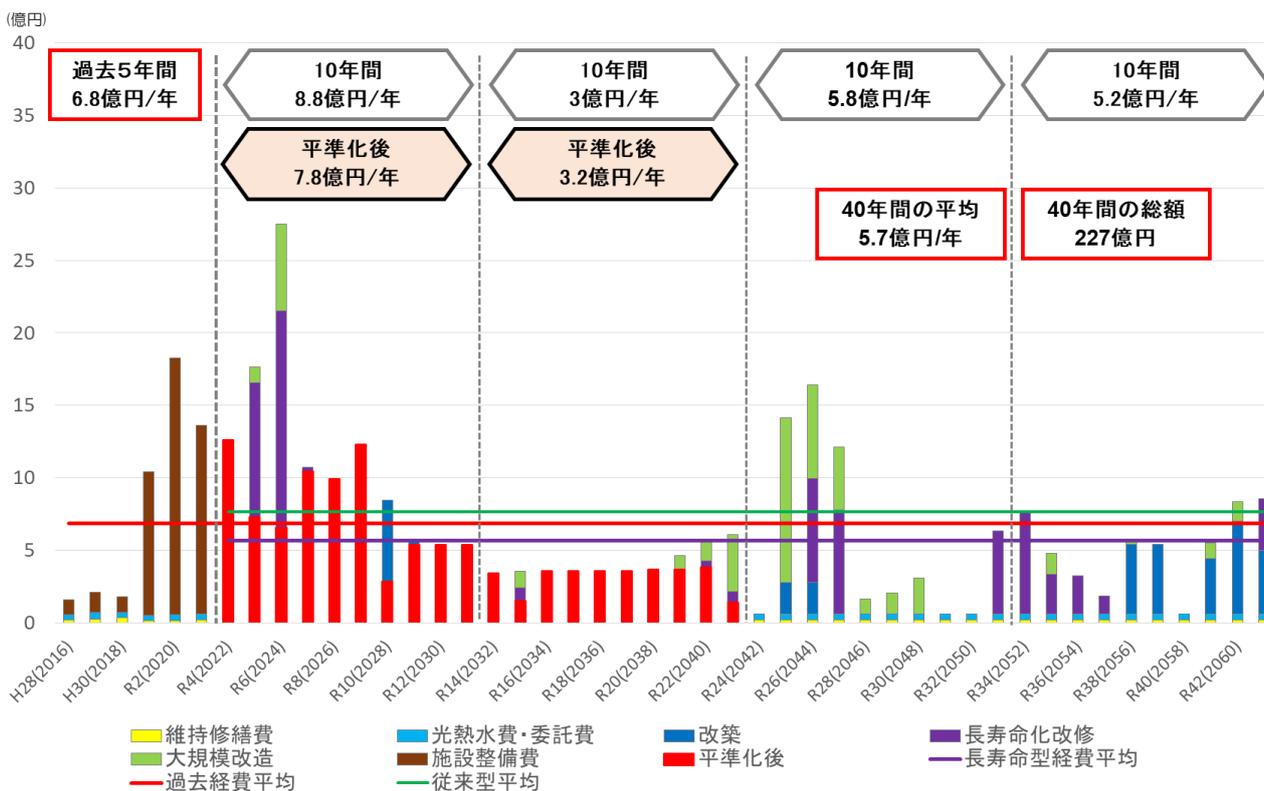
## 2 長寿命化のコストの見通し、長寿命化の効果

### (1) 長寿命化のコストの見通し

実施計画に基づいて、今後20年間における施設関連経費を平準化すると、令和4(2022)年度から令和13(2031)年度の10年間における施設関連経費が7.8億円/年(最大12.6億円/年)となる見込みです。

また令和14(2032)年度以降については、現時点において想定される長寿命化及び大規模改修などを考慮し3.2億円/年を見込みます。ただし、令和22(2040)年度頃に築80年に達する施設があり、改築する場合の費用は見込んでいません。

【図 維持・更新コストの平準化】



### (2) 長寿命化の効果

建物を長寿命化することにより施設を長く使い続けることで、結果ライフサイクルコスト(LCC)を削減することができます。また、改修等の優先順位に基づき長期的な計画を立てることで、施設関連経費を平準化し財政的な負担を軽減し、効率的な施設の維持管理を行うことができます。

なお、児童及び生徒数の減少や地域性に応じて、今後通学区域の見直しなど学校のあり方について十分に検討し、施設規模の適正化や複合施設化を進め更なる財政負担の軽減に努める必要があります。

## 第7章 長寿命化計画の継続的運用方針

### 1 情報基盤の整備と活用

過去の改修履歴を踏まえ、施設の老朽化の状態や建築基準法第 12 条に基づく点検等の法定点検の結果を管理し、計画の更新に活用します。

### 2 推進体制等の整備

学校施設の所管課である教育委員会事務局教育総務課が中心となり、教育委員会事務局内の関係課と連携しながら学校施設長寿命化計画を継続的に運用します。

### 3 フォローアップ

本計画は、学校施設の改修や建替えの優先順位を設定するものであり、事業化については、その年々の予算編成方針等を踏まえて事業費を精査します。また、事業の進捗状況や各施設の老朽化の状況、マネジメント方針等の市全体方針の進捗等を踏まえて本計画は見直しを図るものとしします。

2022年（令和4年）3月

発行 野洲市教育委員会

〒520-2395 滋賀県野洲市小篠原 2100 番地 1

TEL (077) 587-6014

FAX (077) 587-3835